

「入門微分積分学 1 5 章」正誤表 (2016年5月)

ページ	行	誤	正
10	↓8	最後の項は0に収束する.	最後の項は例題 1.2(2) より 0 に収束する.
14	↓11, 12	定理 1.1	定理 1.4
53	↑7	$ x - x' < \pi/2$	$ x - x' < \pi$
53	↑3	であるから $y = \cos x$ も	であるから定理 A.11 によって $y = \cos x$ も
83	↓4	であって	とすることができ
90	↑3	$\lim_{x \rightarrow +0} \frac{-f'(1/x)/x^2}{-g'(1/x)/x^2} = \lim_{x \rightarrow +0} \frac{f'(1/x)}{g'(1/x)}$	$\lim_{x \rightarrow +0} \frac{-f'(1/x)/x^2}{-g'(1/x)/x^2} = \lim_{x \rightarrow +0} \frac{f'(1/x)}{g'(1/x)}$
103	↑3	$(x-t)^{(n-1)}$	$(x-t)^{n-1}$
103	↑2	$(x-t)^{(n-2)}$	$(x-t)^{n-2}$
153	↓4	二つの数列が	二つの数列 $\{a_n\}$ と $\{b_n\}$ が
155	↓1	定理 14.2 より	定理 14.3 より
195	↑2	から収束する単調増加数列	から収束する有理数の単調増加数列
196	↓3, 4	すると次のことが	すると a^x は x の関数として $(-\infty, \infty)$ で連続であり, 次のことが

奥付については、1967年以降現在までを次のようにする。

1967年 岡山大学大学院理学研究科修士課程修了，大阪大学大学院理学研究科
博士課程中退。
その後，大阪大学，鳥取大学，放送大学を経て，
現在 鳥取大学名誉教授，放送大学名誉教授，理学博士